

平成25年8月30日

南海電気鉄道株式会社
大 阪 府

『なんかいの森』オフセット・クレジット活用

『共生の森づくり活動』に伴うCO₂排出を実質ゼロに！

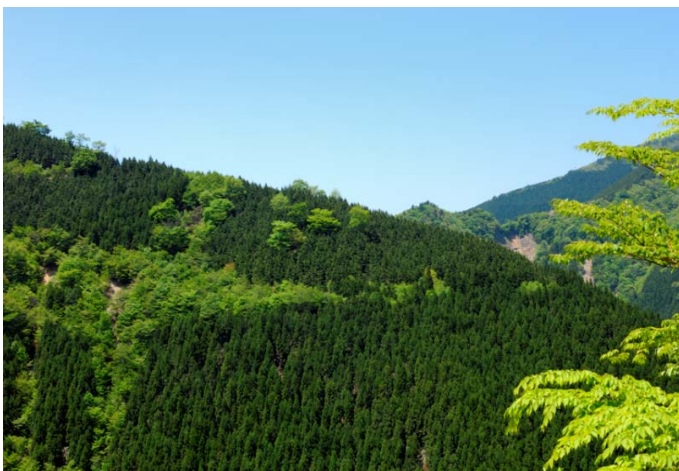
～公共交通機関の利用促進など地球温暖化防止の取組みにより、
生物多様性豊かな自然共生社会の実現を目指します～

大阪府と南海電鉄は、平成21年6月23日、全国に先駆け、官民共同で沿線地域におけるみどりづくりや自然環境の保全活動、さらに、沿線エリアの活性化に取り組むため、「グリーンパートナー協定」を締結しました。

当協定に基づき、堺市臨海部にある堺第7-3区「共生の森」での植樹活動や泉南郡岬町多奈川地区にある関空二期工事土採跡地でのビオトープづくりなどについて両方で連携協力し、環境にやさしい取組みを進めてきました。

このたび、「共生の森づくり活動」をさらに環境にやさしい活動へと発展させるため、南海電鉄が所有する「なんかいの森」の森林保全によって取得した、環境省オフセット・クレジット（J-VER）制度によるクレジットを活用することで、「共生の森づくり活動」の参加者の移動や資材搬入による交通機関利用に伴うCO₂の排出をオフセットし、CO₂の排出量を実質ゼロとします。

これにより、参加者のほか、地域の方々に環境保全についてさらに意識を高めていただくとともに、公共交通機関の利用など、環境にやさしい行動を推進していきます。



なんかいの森



「共生の森」植樹イベント

1. 対象イベント 大阪府主催：「共生の森づくり」

平成25年9月21日（土） 植栽木に元気を！（草刈活動）

参加人数：約100人

平成26年3月 1日（土） 植樹祭イベント

参加人数：約500人

2. 公共交通機関利用促進キャンペーン

参加者の方々に、鉄道などの公共交通機関の利用がさらなる環境保全活動の一環となる（鉄道のCO₂排出量は自家用車の約1/8）ことを大阪府のホームページなどを活用して周知し、積極的に公共交通機関を利用いただくことを促進します。

3. CO₂オフセットの概要

「共生の森づくり活動」に参加される方の移動や資材類搬入などによって発生するCO₂を算定し、クレジットと相殺することによってCO₂の排出量を実質ゼロとします。

《参考》グリーンパートナー協定について

南海電鉄沿線において、豊かなみどりづくりや自然環境の保全を進めるため、大阪府と南海電鉄が、「グリーンパートナー」となり、連携して各種の活動に取り組むことを取り決めた協定。

《参考》「共生の森づくり活動」について

「共生の森」とは、堺市臨海部の「堺第7-3区」にある産業廃棄物最終処分場の一部、約100haにおいて、都市におけるみどりの“大拠点”をつくるもので、平成13年に「都市再生プロジェクト」に位置づけられたものです。

整備方法は、府民、企業、NPO等のボランティアの参画のもと、森林のほか、野鳥や小動物が生息する草地や水辺などが介在する、大規模な“みどり空間”を創出していくものです。

◆活動実績（平成15～24年度）

植栽面積：123,380㎡ 植栽本数：57,196本 延べ参加人数：約12,860人

参加企業等：221

《参考》護摩壇山「なんかいの森」とオフセット・クレジット（J-VER）について

①護摩壇山「なんかいの森」について

「なんかいの森」とは、南海電鉄が奈良県吉野郡十津川村において所有する森林です。昭和52年からスギ・ヒノキの植林を開始し、以来、計画的な植林、施業（枝打ち・間伐など）を行っています。

◆所在地：奈良県吉野郡十津川村杉清口千丈575

面積：約510ha（人工林310ha、天然林200ha）

②「オフセット・クレジット（J-VER）」制度について

J-VER制度とは、国内で実施された森林整備やバイオマス活用などのプロジェクトによる温室効果ガス排出削減・吸収量を、カーボン・オフセットに用いられる一定の信頼性が確保されたクレジットとして認証する仕組みであり、地球温暖化対策推進のため環境省が創設した制度です。

現在、J-VER制度は、J-クレジット制度に移行し運営されています。

以上